

憎しみの連鎖

フランスで起こった同時多発テロ。百三十人もの尊い命が犠牲になったと言います。突然に家族を失った人々のことを思うと、胸が張り裂けそうになります。

いま世間を震撼させているIS(イスラム国)は、第三世代のテロリストだと言われている。第一世代は、ソ連によるアフガン侵攻に抵抗した武装勢力、第二世代がアルカイダ、そしてイラク戦争を経ていま、テロを起しているのが第三世代という訳です。いつの時代も、武力によって解決しようと試みた結果、憎しみの火種が育ち、大きなテロへと結びついてきたのです。神の名のもとに人を殺しても良いはずがありませんが、私たちもその歴史を学ばなければ本当の解決にはならないでしょう。いままた、各国がイスラム国を空爆しはじめています。全滅したかのように見える町のどこかで、次の火種が燃え始めることでしょうか。武力による解決は不可能であることはすでに歴史が証明しています。誰かが勇気を持ってこの憎しみの連鎖に終止符を打たねばなりません。あの夜、パリのコンサートホール、ルバタクランで、妻エレヌさん(35)を亡くしたパリ在住のアントワーン・レリスさんが、テロリストに向けてフェイスブック上に下の手紙を綴っています。

「君たちを憎むことはない」

金曜日の夜。君

たちは特別な人の命を奪った。私の最愛の人であり、



息子の母親だ。だが私は君たちを恨まない。私は君たちが誰であるかを知らないし、知りたくもない。君たちは死した魂だ。君たちは、神の名において無差別な殺りくをした。もしその神が、自分に似せて私たちをつくったとすれば、私の妻の体に撃ち込まれた弾丸の一つ一つが、彼の心の傷になっただろう。

私は君たちに憎しみの贈り物をあげない。君たちはそれを望んだのだろうが、怒りで憎しみに応えるのは、君たちと同じ無知に屈することになる。君たちは私が恐れ、周囲に疑いの目を向ために自由を犠牲にすることを望んでいるのだろう。それなら、君たちの負けだ。私はこれまでと変わらない。

私は今朝、妻と再会した。幾日も幾夜も待ち続けてやっと会えた。彼女は金曜日の夜、出かけた時のままだった。私が12年以上前、激しい恋に落ちた日と同じように美しかった。もちろん私は悲しみにうちひしがれている。君たちの小さ

な勝利を認めよう。だが、それも長くは続かない。

妻はこれからも、いつも私のそばにいて、私たちは、君たちが決して近づけない自由な魂の天国で一緒になる。私は息子と二人になった。だが私たちは世界の全ての軍隊よりも強い。

君たちにかまっている時間はもうない。昼寝から目覚めたメルビルのところに行かなければならない。まだ1歳と5カ月になったばかりの彼は、いつもと同じようにおやつを食べ、私たちはいつもと同じように遊ぶ。この子の生涯が幸せで自由であることが、君たちを辱めるだろう。君たちには彼の恨みですら、あげることはない。



妻エレヌさん。一人息子のメルビルちゃんを抱いている。